請求書オンラインで

BEARTAIL　新機能

BEARTAIL（東京都千代田区）は、提供する請求書オンライン受取システム『INVOICE POST』（インボイスポスト）に、過去に登録作成した「明細情報」を引用できる新たな機能を3月26日に実装した。

同システムは、取引先から直接請求書を受け取ることなく、承認や支払い、仕訳、保管業務を完結できる請求書受取サービス。請求書の受け取りや確認、金額入力、振り分け業務などの人力作業は、同社オペレータがすべて代行する。請求書がデータ化され、同システムの導入各社がリモートで検索・照会できる。

毎月の請求書処理では、定期的に送付される請求書に毎回、取引先情報や支払い情報などを入力する必要があるなど、運用面で課題を持つ企業は少なくない。新機能では、取り込んだ請求書データを編集・追加する際に、過去に作成した明細を引用できる。

引用できる項目は、請求明細科目・参加者・税区分・貸方勘定科目・プロジェクト・費用負担部署・メモとなり、一方、明細名や支払先情報、金額、源泉徴収税額は、請求書の受け取り時点で同社オペレータが代行入力する。

一厳格に認証された本人確認する実印タイプとメールアドレスで確認印タイプの双方に対応。書類の内容や性質、重要度に合わせて使い分けできるなどその特長を紹介した。

GMOグローバルサイン・ホールディングス（東京都渋谷区）の3社は、契約書や請求書の「脱ハンコ」セミナーを3月25日に共催し、ウェブで配信した。

「コンプライアンス」の観点で、オープンソシエイツの大和田将平氏は、新聞やインターネット記事を検索できる同社提供のサービス『RobRobコンプライアンスチェック』を紹介し、不形式の請求書が届いても、振込データや仕訳データを会計ソフトと連携させて経理の支払・計上処理を自動化し、デジタル化する。先方からの請求書がPDFならば、そのままデータ化する。紙で届く場合でもスキャンしてデータ化できる。オペレーター対応のサービスも提供しており、企業は確認作業だけで済む。業務の効率化や最近のテレワークにも対応できる」と導入のメリットを紹介した。

業務プロセス自動化

ティアックオンキョーソリューションズ

ティアックオンキョーソリューションズ（東京都多摩市）は、業務プロセスの全体管理をデジタル化させるなサービス『WAN-Sign/intra-mart連携ソリューション』の提供を3月31日に始めた。

社内業務や社外取引での印や契約業務などの場面で紙・電子の書面の保管や取引先とのやり取りまでを、一通貫にオンライン化できるように企業を支援する。

今回の新サービスは、ワンビシアーカイブズ（東京都港区）が提供する紙と電子の双方を一元管理できる契約サービス『WAN-Sign』（ワンサイン）と、エヌ・ティ・ティ・データ・イントラマート（東京都港区）が提供する業務全体のワークフローを自動でデジタル化する『intra-mart』（イントラマート）の加工現場では、電話やファクス、紙書類などで未だにアナログな手法が多い。短期間に、1日で複数の現場を掛け持つために慌ただしく移動し、伝達ミスの発生、関係者間での情報の連携や共有がしづらいといった課題感がある。同社システムでは、これらをスマートフォンで解消する。

スマートフォンで撮影した写真や文字を入力すれば、現場にいながらにして現場報告書を作成し、リアルタイムで共有できる。各種帳票類をデジタル化し、建物や設備単位ごとに紐づけて修繕履歴を管理できます。見積書などの書類を電子化して一元管理できる。進捗状況などのスケジュール管理も容易だ（写真）。活用場面は建物の維持修繕、日常の定期清掃や巡回点検など幅広い。特別なアプリのダウンロードは必要ない。そのため、同社社長の桐原康輔氏は、同システムの提供で、「創業以来、手掛けている原状回復やリフォームなどのリアルな施工現場で当社が得ている知見を生かした“現場目線”を同システムに反映している。現場管理の平準化を支援していきたい」と話し、今後も施工現場のプロセスのDX（デジタルトランスフォーメーション）化を支援していく。

スマホで業務効率化

BPMメンテナンス現場

スマートフォンで手軽に情報を連携させ、建物・設備メンテナンスの業務管理ができるとして、BPM（東京都渋谷区）が提供する業務管理支援システム『QOSMOS』（コスモス）の導入が不動産管理やビルメンテナンス、保守点検サービスの事業者で広がりを見せている。1月に大日本印刷と資本提携し、一層の技術・サービスの開発に力を入れている。

メンテナンスの加工現場では、電話やファクス、紙書類などで未だにアナログな手法が多い。短期間に、1日で複数の現場を掛け持つために慌ただしく移動し、伝達ミスの発生、関係者間での情

つなぐ技術で価値創出

ビットキー　広島の企業支援

ビットキー（東京都中央区）は、広島県の主催で新規事業を創出するアクセラレーション・プログラム「DEGビジネス・アクセラレーター2020 supported by Bitlock」（ビットロック）で、支援役の「ゴールドパートナー」第1号に選ばれた。同プログラムで採択された同県内30社の実証実験を支援する。コロナ禍での課題をデジタル技術で解決する技術やサービス、仕組みを創出していく。

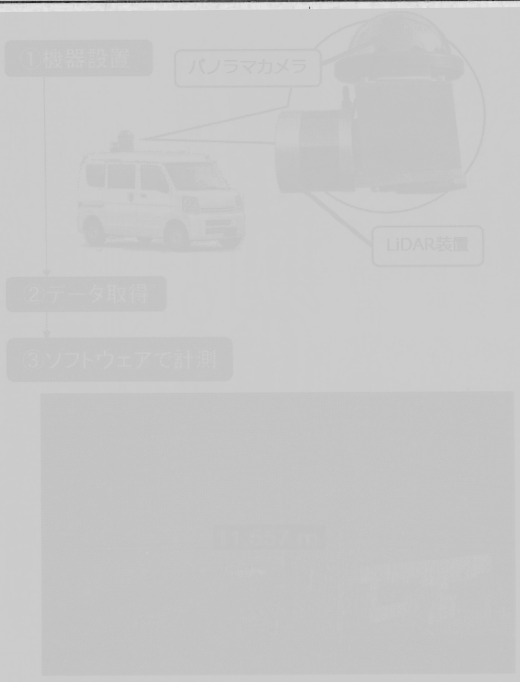
同社はスマートロック「bitlock」（ビットロック）事業をつなぐプラットフォーム「home hub/work hub」（ホームハブ・ワークハブ）を提供している。同社のコネクト（つなげる）技術を活用し、採択された個別の企業内や企業同士、更には採択企業以外とデータなどを連携する。施設や物件管理、設備の向上にも期待できる。同社社長の桐原康輔氏は、同システムの提供で、「創業以来、手掛けている原状回復やリフォームなどのリアルな施工現場で当社が得ている知見を生かした“現場目線”を同システムに反映している。現場管理の平準化を支援していきたい」と話し、今後も施工現場のプロセスのDX（デジタルトランスフォーメーション）化を支援していく。

個別業務の改善を

日鉄興和と提携

また、ビットキーは、日鉄興和不動産（東京都港区）から、UPDATA（東京都渋谷区）の3社は、定型業務を自動化させるRPA技術などを活用した不動産テックサービスにより、“ビンポイント”の観点から業務の改善方法を考えるセミナーを3月25日に共催し、ウェブで配信した。

「コンプライアンス」の観点で、オープンソシエイツの大和田将平氏は、新聞やインターネット記事を検索できる同社提供のサービス『RobRobコンプライアンスチェック』を紹介し、不



仕組みは、車両に機器を設置し、360度パノラマ画像データやLiDAR計測によるデータを取得。得られたデータを施したデモンストレーションでは、電柱・電線を対象にサービスの特長を紹介した。

LiDARや360度画像、地図情報を同時再生し、端と端の2点をクリックしただけで高さや長さ、傾き、緯度・経度などを測した。背景の中から対物だけを抽出した解析もい、仮想電柱を生成して際の画像に挿入した。同サービスは、仮想空と現実世界を融合するジタルツイン技術”でマート保守点検を実現る。施設や物件管理、設

売買仲介営業が劇的に変わる！
FOR 不動産仲介
専用ツール
新規代理店様
新規業務提携業者
①代理店様
・弊社の代理店として案件の斡旋業務を行ってい